

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 183号

平成29年7月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

新渡戸稲造「人生雑感」より (3)

友会徒の社会的事業 (1)

この友会は日本ではわずか 22, 3 年前に起ったもので、当時その原語なる英語のソサエティー・オブ・フレンズを訳するについて、私もいくらかご相談を受けましたが、愛徒がよかろうあるいは友徒としようというような説もあったが、結局友会と訳することになった。……それならその言語はどこから起こったかと言えば、250 年ばかり前に、宗派の開祖であるかのジョージ・フォックスから始まった。彼の言うに、我々はお互いは友達である、互いに朋友であるのみならず、我々は神の朋友である。キリストの言われたことに、われなんじらを弟子と呼ばない、わが友と呼ぶという辞がある。ゆえに我々はキリストの朋友、神の朋友である。相互の関係には上下の区別はない。すでに友と言えば同等である。平等という観念から、

この文字を用いたのである。…

さて名称の由来は右の通りであるが、なぜこういう新しい宗派ができたか。250年前（すなわちフォックスの時代）というと、キリスト教はすでに1900年前に現われており、その初めてイギリスに入ったのは8世紀であるから、イギリスでもすでに800年間も伝わっていた時である。しかるにその頃に至り、この宗教になぜ新しい宗派を造る必要があったか。なぜジョージ・フォックスが、こういう一種特別の団体を造ったのであろうか、という質問が自然に起きる。これは重大なる問題である。なぜならばフォックスはただ新しい名をつけたのではなく、キリスト教の教理について、新しい解釈を下したからである。ここが大事である。

友会徒の社会的事業 (2)

ご承知の通りカーライルはまず19世紀のイギリスの学者中最も偉大なる思想家である。もし近世における10人の大学者の名を挙げるならば、カーライルは必ずその中に入る人である。彼はただに文学者哲学者思想家として偉大であったばかりでなく、また歴史家としても偉かった。彼は殊にクロムウエル時代すなわち17世紀のジョージ・フォックスの時代にくわしかった。有名なクロムウエルの伝を著して、世に悪人とせられてあったクロムウエルのために冤(えん)をそそいだのはこの人である。さてそのカーライルがフォックスについてどういうことを言ったかというに、近世の歴史におけるもっとも顕著なる出来事は、ウォーターローの戦争だというのが、そうではない、それでは何が最も顕著なる出来事かというに、ジョージ・フォックスという男は靴屋であったが、彼が靴を造る大きな革を縫って、革の着物を造ったという事実がすなわちそれだ、彼はそれを着て一人森林に入りこんで神と交わり、ついに世界を動かした——と言っている。

友会との社会的事業 (3)

しからばこのフォックスという男はどんな生い立ち又人となりであったかというに、彼は非常に強い人であった。学問はなかったけれども、実に偉い人であった。職業は靴屋である。一体靴工というものは、善い考えが出るものだそうだ。なぜならば、今日は靴を機械でつくるけれども、昔の靴屋は座っていて鉄でこしらえた足の形をしたものを前において、靴にボンボン釘を打つのが主なる仕事であった。…座っていて釘を打つのは機械的であって、熟練すると見ないでもできる仕事でもある。そこで心を仕事以外に走らすことができる。靴屋は仕事をやりながら、落ち着いて考えることのできる余裕のある職業である。であるから靴屋から有名な人がたくさん出ている。ホイーラーという人の書いた『フェーマス・シューメーカーズ』という書がある。有名な靴屋の伝を書いたもので、その中の一人はジョージ・フォックスである。彼はただ考え深いのみならず、強い人であった。

友会との社会的事業 (4)

彼は相変わらず正直に靴屋をしながら聖書を読んでいたが、当時のキリスト教に対し大いに不満を感じ、キリスト教をこの腐敗の中より救い出さんと発心して、伯夷叔斎ではないが、山に引き込んで、野生の物を採って食物とし、大きな洞窟や木の空洞を住まいとした。これで食住は事足りるとしたが、いわゆる衣食住の衣について、フォックスは、幸いここに牛の革がある。ひとつこれで着物を造ろう、これがあれば 100 年生活していても大丈夫だと言って、靴を造る革で大きな着物を造った。

これこそすなわちカーライルが近世史上の最大事実であると言った出来事である。なぜそう言ったかというに、この時はすなわちフォックスがこの世の中を去り、欲の世界を離れて、精神界に入り、人世の精神的方面を出来るだけ、発展せしめようという決心を起こした時、他人が善と悪い悪というに構わず、自ら正しと信ずる主義に基づいて一の団体を造り、その団体の力によって、全世界に自分の主義を及ぼそうという考えを起こしたときに、すなわちその主義により、全世界に新しい光明を輝かそうと考えた時であるからである。かくのごとくにして、友会というものの基礎ができた。

友会徒の社会的事業 (5)

実際彼は幾度牢屋に行ったか知れぬ。あまりたびたび行ったものだから、牢屋の役人などにはフォックスの名を知らぬ者がないようになり、ついには彼の名は時の主裁者、クロムウエルの耳にも入り、そういう男ならば会ってみようという事になり、フォックスもクロムウエルをみたいというので会見したことがある。クロムウエルは偉人であったからフォックスを一目見て、そのただものならざる事を看破したが、フォックスも亦さるもの、クロムウエルを偉い男だと感じたという話である。彼はたびたび監獄に行き獄吏とも懇意になったので、…入獄中刑期が満了せぬ中にでも、何かなすべき事業があると、獄吏と約束して1週間なり10日なりの暇をもらって出獄し、事業をやって帰ってくる——今帰ってきたと行って、また監獄へ入った、それほど実行を重んじた。

とにかくこの人の伝記を見ると、自分の信じたことは必ずやるという主義、すなわち王陽明派のやかましく言っているいわゆる知行合一、知ることと、行なうということと同じにする、行なわなければ知ると言われぬという考えをもって、自分の善と信じたことを実行することを教えた。

友会徒の社会的事業 (6)

ジョージ・フォックスという人は右に述べたような人物であった。であるから彼のところに集まったものはいずれも皆強い人であった…ウィリアム・ペンも、世人から友会に入るのはつまらぬと笑われたが、フレンドの精神に大いに感じて、フォックスの弟子になった。彼はフォックスに次いで強い人である。父は海軍大将として武功があり、華族でおまけに金持ちで、宮内省へ金を貸して、時の王様チャールスを困らせたような人であった。息子のウィリアム・ペンは宮廷にも出入りして、わがままをもって聞こえた人である。…けれども彼はかかる境遇に在りながら、位も金も名誉も何も捨てて、革の着物を着ているフォックスの弟子になった。これはよほど精神の剛毅な人でなければできない所である。父の海軍大将は怒って勘当すると言った。…親戚朋友の意見も用いずフォックスに付いてしまった。しかして当時の宗教の腐敗している所に突撃した。教会で牧師が説教をしていると、聞いていて、ちょっとお待ちください、あなたの説教は間違っている、それは違うと反駁する。…ジョージ・フォックス、ウィリアム・ペンなどは大いにそれをやったものである。だから牧師などに嫌われたのももっともである。

友会徒の社会的事業 (7)

友会は右に述べたような偉人のもとに大勢の強い人間が集まって団体をなしたのであるから、その影響が社会のあらゆる方面にわたって、甚大であったことは怪しむに足らぬ。…その頃イギリスでは、今日日本で貴方とかお前とか人によりて呼び方を違えるように、相手によってザウ、ユウ、の区別をした。所がフォックスは人間はみな平等である、貴方とかお前とか区別はいらぬ、みなお前でよいと言って、何人に対しても、ザウ、ジーという語を用いた。…イギリスの議員の中に友会徒が5、6人あった。しかもジョン・ブライトの如き院内総理ともいふべき人があった。またフォスターの如きは文部大臣になってイギリスの教育制度を作った人である。…

そういうように質素ということを重ね、色々の点において、社会の悪い傾向を矯正することに努めた。これで大体友会徒なるものは、いかなる時代に現われて、いかなる主義をもって立ったかということが分かったと思います。

友会徒の社会的事業 (8)

かくのごとく個人の考えに重きを置くから、たとえあることに就いて会友の意見を聞いてやるにしても、多数決によって決しない。普通の会議のように議長をこしらえ、…多数決で議決すれば、朴念仁でも何でも手を挙げさえすれば数に入る。フレンドではそうではない。少数者の意見でも、神のみ旨に一番かなうと思わるる説に決める。…賛成説を述べた人々は才子で利口のようだが、重みが少ない。目方にすれば1貫500目乃至2貫目くらいしかない人である。早いと言った爺さんは平成信仰も行いも備わった人で、只一人でも1トンぐらいの重量であった。そこで書記は、爺さんの尚早説に決したのである。爺さんの説に反対する人は多かったけれども、200人もいる中只1人の意見に議決してしまった。頭数ではなく、人物の重み決を採る。そういうような仕組みであるから、個人個人がみな銘々に考えて、この事業が良いと思えば、教会の手も借らず、外の人に相談もせず、単独で直ちにやることもある。それであるから友会徒の間には個人のやっている仕事がたくさんある。その個人の事業に同情して、俺も一つ手伝いしようと思えば一緒にやる。そういう風であるからあらゆる方面に事業が発達している。

友会徒の社会的事業 (9)

かくのごとき時代において、俺が事業をやる、責任者は俺だ、考え付いたのも俺だ、やると言ったのも俺だ、悪くとも善くともやってみる。自分一人で責任を持つという人間のあることは望ましい。強い人物、多数団体の一人として強い風をしているのではない。故人として強い人間があって初めて本当の事業ができると思う。フレンドは強い立派な個人主義である。——個人主義というのを誤解せぬように——道徳上の責任について、個人主義を主張している。これが友会の主義であって、またその事業の動機となるべき原動力である。私は現代の社会がこの点についてフレンドに学ぶべきことが多くあるを固く信ずる。

本来はこの精神から割り出すところの事業についてお話しするのが主であったけれども、事業を一つ一つお話ししてはきりがなから、あらゆる事業の原動力となるべき主義、動機、すなわちフレンドの割出しは何かということをお話ししたつもりである。